

第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会 議事録

日時：2019年4月5日(金) 10:00-16:10

場所：日本学術会議 5-1(1)会議室

出席：大西公平, 川村 光, 田近英一, 田辺新一, 茶谷直人, 菱田公一, 山口 周, 吉村 忍, 米田雅子, 安達 淳, 小菌英雄, 小松利光, 柴田直

欠席：花木啓祐

1. 書類の確認/委員リストの確認

- ・配布書類及び委員名の確認を行った。

2. 委員の自己紹介

- ・資料1に基づいて自己紹介を行った。

3. 分科会の趣旨説明

- ・資料2-1に基づいて、本分科会の設立趣旨の説明があった。理工系学協会における学術出版や国際競争力などに関する議論や過去に発出された関連する提言の検証などを目的とする。

4. 役員の選出

- ・山口委員を委員長に選出した。また、菱田委員を副委員長に、安達委員および田近委員を幹事にそれぞれ選出した。

5. 各委員の関係する関連学協会に関わる問題提起

- (1) 大西委員より、電子電気工学分野の状況について説明があった。
- (2) 田近委員より、日本地球惑星科学連合の状況について説明があった。
- (3) 田辺委員より、日本建築学会の状況について説明があった。
- (4) 茶谷委員より、日本化学会の状況について説明があった。
- (5) 菱田委員より、日本学術会議において提言等をまとめた際に議論された内容について紹介があった。
- (6) 吉村委員より、総合工学分野の状況について説明があった。
- (7) 米田委員より、オープンデータやオープンアクセスなど学術出版に関するコメントがあった。
- (8) 安達委員より、情報学分野の状況について説明があった。
- (9) 小松委員より、土木学会及び日本工学会の状況について説明があった。

6. 活動方針について

- ・山口委員から、資料2-2に基づいて日本の理工系学協会がおかれている現状の分析、問題提起と本分科会で検討すべき事項についての説明があった。
- ・大きな課題として、「会員減少問題：学会のサステナビリティ」「国際競争力：発信と受信」「学会の国際化」「オープンデータ／オープンサイエンス&オープンイノベーション」などがある。
- ・今後の方針として、「過去の報告及び提言の検証」「10（～30）年の時間スケールで将来に向けた学会のあるべき姿を考える（会員減少・高齢化問題，連合体・連携体の推進，ジャーナル問題，国際競争力強化）」などについて検討したい。

7. その他

8. 話題提供

(1) 「対外報告(2007) & 提言(2008)について」

- ・菱田委員より、対外報告「学協会の機能強化のために」（資料3）及び提言「新公益法人制度における学術団体のあり方」（資料4）をまとめた際の議論について紹介があった。

(2) 「日本初の魅力ある国際ジャーナルを目指して：～APEX/JJAPの挑戦～」

- ・柴田委員より、資料8に基づいて、応用物理学会の国際ジャーナルの取り組みについての紹介があった。

(3) 「オープンアクセス問題+オープンデータ提言(2004)について」

- ・安達委員から、資料1-1および参考資料1に基づいて、ジャーナルのオープンアクセス問題についての紹介があった。

(4) 「オープンデータ／オープンサイエンス+浅島提言(2010)について」 [情報提供]

- ・谷藤幹子氏（物質・材料研究機構，NIMS）から、オープンデータ／オープンサイエンスを取り巻く状況とNIMSにおける「材料データプラットフォームセンター」について紹介があった。

(5) 「ハゲタカジャーナルと電子出版の将来」 [情報提供]

- ・栗山正光氏（首都大）から、学術出版をめぐるさまざまな経緯やハゲタカジャーナルの概要、学術出版の将来などについて説明があった。

(6) 「ハゲタカジャーナルの問題点」 [情報提供]

- ・鳥井真平氏（間日新聞）から、ハゲタカジャーナルに関する現状や問題点について説明

があった。

9. その他

- ・ハゲタカジャーナル等については身近な事例を集めていただくこととする。
- ・第2回分科会は、3、4か月後をめどに開催予定
- ・学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2」(参考資料2)が平成31年4月19日(金)に開催予定

以上

配付資料：

- 資料1 委員会名簿
- 資料2-1 設置提案
- 資料2-2 本分科会：基本情報と検討事項
- 資料3 対外報告「学協会の機能強化のために」(2007)
- 資料4 提言「新公益法人制度における学術団体のあり方」(2008)
- 資料5 提言「学術誌問題の解決に向けてー「包括的学術誌コンソーシアム」の創設ー」(2010)
- 資料6 報告「オープンデータに関する権利と義務ー本格的なデータジャーナルに向けてー」(2014)
- 資料7 提言「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言」(2016)
- 資料8 「日本発の魅力ある国際ジャーナルを目指して～APEX/JJAPの挑戦」(柴田先生資料)
- 資料9 「ハゲタカジャーナルと学術出版の将来」(栗山先生資料)
- 資料10 「ハゲタカジャーナルの問題点」(鳥井先生資料)
- 資料11 「オープンアクセスの概況+オープンデータ報告の概要」(安達先生資料)
- 参考資料1 NII Today No. 82, 2018 (安達先生資料)
- 参考資料2 日本学術会議学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2」